

戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業

畑地帯総合整備 月ヶ瀬桃香野地区

奈良県（農村振興課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

平成24年度 再評価対象事業一覧表（第3回委員会）

種別	事業名	地区名	事業箇所	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	全体事業費 (百万円)	総投資額 (平成24年度迄) (百万円)	事業概要	対応方針 (事務局案)
農業用排水	戸別所得補償実施円滑化基盤事業	畑地帯総合整備 月ヶ瀬桃香野地区	奈良市 月ヶ瀬桃香野	平成19年度	—	平成20年度	818.2	706.7	進捗率73% (平成23年度末) 受益面積 A= 22.1ha	継続

事業評価項目一覧表

事業名	戸別所得補償実施円滑化 基盤整備事業	事業主体	奈良県																				
河川・道路名等	畑地帯総合整備 月ヶ瀬桃香野地区	事業箇所	奈良市月ヶ瀬桃香野																				
評価項目及び評価内容																							
<p>事業の目的及び必要性</p> <p><input type="checkbox"/> 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 茶業における安定した収穫量の確保、農作業（かんがい、施肥）の効率化を図るために畑地かんがい施設の整備、農地整備を行う。 <p><input type="checkbox"/> 必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 県北東部に位置する大和高原地域は、リーディング作物である大和茶の主産地。また、国営事業も実施された営農意欲の強い農業地域であり、今後とも担い手を支援育成し、農業経営の安定化を図るため、営農の効率化を推進する必要がある。 																							
<p>事業策定の経緯</p> <p><input type="checkbox"/> 当時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 国営事業により、茶畑が整備され、大型機械の導入による生産性の向上、及び経営規模の拡大化は進んだが、末端部におけるかんがい施設が未整備であるため、茶の収穫量が気象条件に左右され不安定である。 <p><input type="checkbox"/> 着手までの経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年度事業採択、平成20年度工事着手 																							
<p>事業の効果（費用対効果や施策的な効果など）</p> <p><input type="checkbox"/> 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 作物生産効果 ・ 営農経費節減効果 ・ 品質向上効果 ・ 維持管理費節減効果 <p><input type="checkbox"/> 費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 総費用総便益比 1. 3 1 																							
<p>事業の進捗状況</p> <p><input type="checkbox"/> 進捗状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>工期</th> <th>H23年まで</th> <th>H24</th> <th>H25以降</th> <th>H23末進捗率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>818,200</td> <td>H19～H25</td> <td>594,278</td> <td>112,400</td> <td>111,522</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>千円</td> <td></td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>受益面積 A=22.1ha</p> <p><input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 						総事業費	工期	H23年まで	H24	H25以降	H23末進捗率	818,200	H19～H25	594,278	112,400	111,522	73%	千円		千円	千円	千円	
総事業費	工期	H23年まで	H24	H25以降	H23末進捗率																		
818,200	H19～H25	594,278	112,400	111,522	73%																		
千円		千円	千円	千円																			
<p>事業進捗の見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度完了予定 																							
<p>事業の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き事業を推進し、予定完了を目指す。 																							
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元農家は早期完了を切望。 地域農業の振興や活性化が期待される。 																							

平成24年度
奈良県公共事業評価監視委員会

戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業
つきがせももがの
畑地帯総合整備 月ヶ瀬桃香野地区

農林部農村振興課

目 次

- ① 地区の状況
- ② 事業目的及び概要
- ③ 事業内容
- ④ 事業の効果
- ⑤ 今後の方針

① 地区の状況

位置図



月ヶ瀬桃香野地区の状況

① 地区の状況

○地理条件

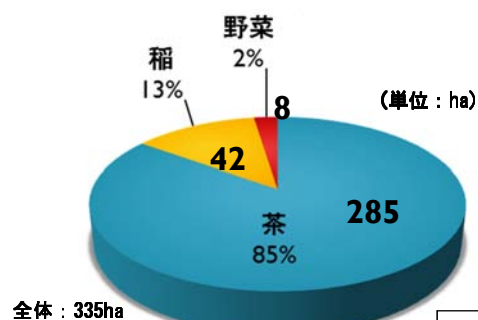
- ・ 県最北端、大和高原地域の北東部に位置し、標高150～400mの起伏の多い丘陵地帯

○農業

- ・ 茶を中心とした経営が主体
- ・ 排水のよい土質で日照が穏やかな気候から、良質な大和茶の産地
- ・ 昭和50年頃から農地造成事業により茶樹の植栽が進み、茶が農業算出額の8割を占める主幹作物



作物の栽培面積(旧月ヶ瀬村)



出典: 2010年農林業センサス

① 地区の状況

大和茶ブランド

大和茶は、県のリーディング品目に位置付けており、マーケティング・コスト戦略により、大和茶ブランドの育成強化を推し進めている。

- 大和茶を用いたスイーツ（バームクーヘン、プリン、ロールケーキ等）
- 茶農家主催により、「空中大和茶カフェ」を開催



② 事業目的及び概要

事業の背景と目的

【事業背景】

- 国営総合農地開発事業「大和高原北部地区」により、茶畑の農地造成はおおむね完了。
- 支線水路以下のかんがい施設が未整備。



【事業目的】

- 干ばつに左右されない安定した収穫が可能となる茶業を目指す。
- 農作業（かんがい・施肥など）の効率化を図る。

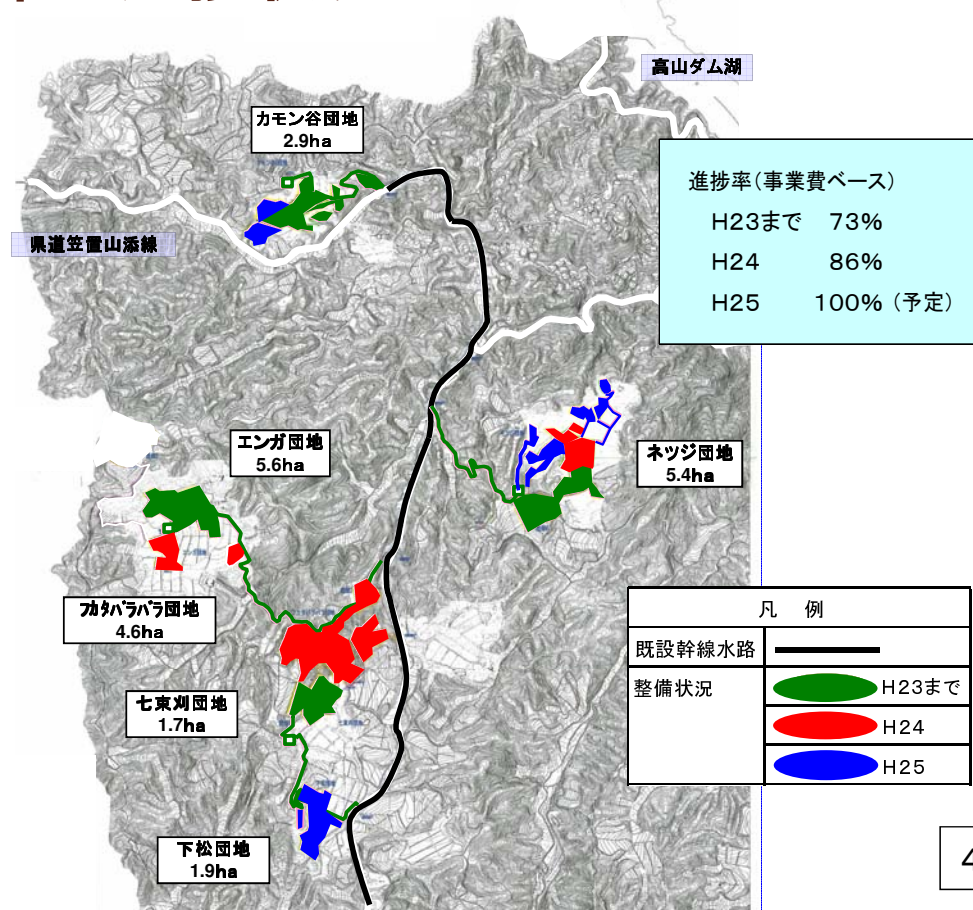
② 事業目的及び概要

事業の概要

事業名	戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業
地区名	畑地帯総合整備 月ヶ瀬桃香野 地区
事業年度	平成19年度～25年度（7年間）
事業量	末端かんがい施設 22.1 ha 支線水路整備 13 km 既畑整備、防霜扇 4.4 ha
事業費	818,200千円
受益面積	22.1ha
事業負担	国50%、県25%、市町村20%、農家5%

② 事業目的及び概要

事業の進捗状況



③ 事業内容

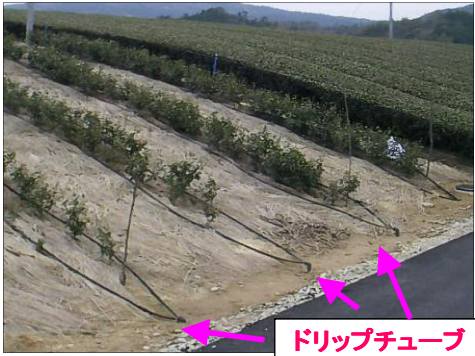
整備の状況



ファームポンド（貯水槽）



茶植付状況



畑地かんがい施設



防霜扇

③ 事業内容

点滴かんがい

- ドリップチューブによる点滴かんがい



- かんがい施設の設置状況（液体肥料タンク）



③ 事業内容

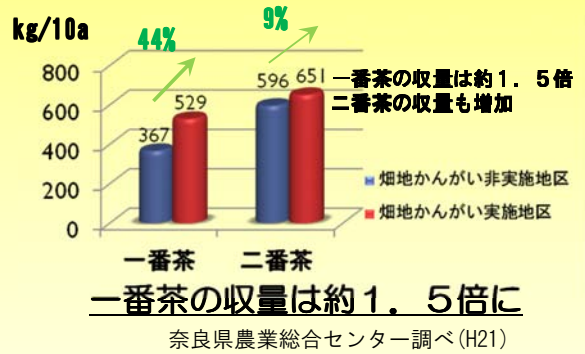
点滴かんがいの効果

- 茶樹の根付近へ必要時に水分や肥料成分を効率よく供給可能



- 茶の収量の増加
- 施肥経費の削減
- 施肥作業の省力化

茶の収量について



施肥に係る年間経費比較(円/10a)

項目	整備前	整備後
肥料代	90,430	31,862
労力	11,227	5,717
計	101,657	37,579

4割程度に削減可能

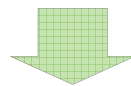
奈良県農業総合センター調べ(H24)

④ 事業の効果

事業効果

土地改良事業の施行に関する「基本的な要件」

「当該土地改良事業のすべての効用がそのすべての費用を償うこと」
(土地改良法施行令第2条)



【総費用総便益比】

事業の効果は、「総費用総便益比 \geq 1.0」を条件としている

$$\text{総費用総便益比} = \frac{\text{総便益 (1,849百万円)}}{\text{総費用 (1,415百万円)}} \rightarrow 1.31 \geq 1.0$$

④ 事業の効果

効果の算定

総費用の算定

費用項目	総費用
当該事業費	887百万円
関連事業費	528百万円
計	1,415百万円

総便益の算定

効果項目	総便益額
作物生産効果	588百万円
営農経費節減効果	1,271百万円
品質向上効果	49百万円
維持管理費節減効果	△59百万円
計	1,849百万円

効果項目の内容

作物生産効果	かんがい施設の整備により、茶の収量が増加
営農経費節減効果	かんがい施設の整備により、機械経費や人件費、肥料代が節減
品質向上効果	防霜扇の整備により、生産物（茶）の品質低下を抑制
維持管理費節減効果	かんがい施設や設備の維持管理費が発生（マイナス効果）

④ 事業の効果

2 次的な効果

かんがい・施肥作業の省力化により、農作物の加工、流通への関心がこれまで以上に高まり、6次産業化への積極的な取り組みが期待される。

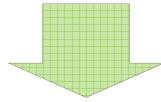


- 本地域で生産された農作物は、茶の他、梅、しょうが、こんにゃくなども加工され、近隣の直売所に出荷
- インターネットを利用した茶葉販売の拡大

⑤
今
後
の
方
針

今後の方針

- 地元農家は早期完了を切望
- 地域農業の振興に本事業の果たす役割は大きい



完了（H25）を目指し、
『事業継続』